



# 新刊案内



2020年10月7日発売

小田急、京王線に続く鉄道沿線史第3弾 !!

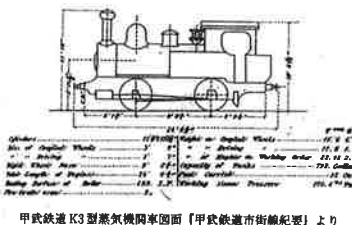
エコーする〈知〉

## 中央沿線の近現代史

●永江雅和(専修大学教授) ●体裁:A5判・並製 197頁 【CPCリブレ No.14】

●定価:本体2,000円+税 ISBN978-4-908823-73-2 C0021

東京の大動脈、中央沿線の今と昔。  
街並み、乗客、列車、駅、この4つを平明に  
書き記した著者の歴史家としての視点が冴える。



### 旅する歴史

「特色」①「多摩」を「東京」に組み込んだ鉄道

②なぜそこに駅はつくられたか?

③沿線自治体史文献の徹底的な渉猟

④写真・図・絵葉書でさらに沿線をメイクドラマー

わかりやすく読みやすい鉄道物語に

⑤蒸気機関車から電車化の重要性を指摘

⑥軍事施設と路線の関係

⑦各駅における文学者の足跡を紹介

### 【目次】

第1章 甲武鉄道からJRまで—中央沿線史へのイントロダクション

第3章 「学生街」御茶ノ水と中央線(御茶ノ水駅～飯田橋駅)

第5章 中野駅前の大開発—鉄道大隊からサンモールまで(東中野駅～中野駅)

第7章 「住みたい街」武蔵野市と中央線(吉祥寺駅～武蔵境駅)

第9章 小金井桜と「はげ」の街(東小金井駅～武蔵小金井駅)

第11章 学園都市の形成と国立市(国立駅)

第13章 日野五社と団地の街(日野駅～豊田駅)

あとがき 関連年表

第2章 東京駅開設と神田の盛衰(東京駅～神田駅～万世橋駅)

第4章 「新都心」新宿はいかに形成されたか(市ヶ谷駅～四ツ谷駅～新宿駅)

第6章 「阿佐ヶ谷文士」と杉並区(高円寺駅～西荻窪駅)

第8章 「文士村」と工場進出(三鷹駅)

第10章 国分寺市と中央線—別荘地からベッドタウンへ(国分寺～西国分寺駅)

第12章 「空都」立川の発展史(立川駅)

第14章 「桑都」八王子と高尾山(八王子駅～高尾駅)

近代日本の鉄道事業はもとより軍事との強い関連の中で発展したわけですが、中央線は東京と名古屋を内陸で結ぶ軍事的な価値の高い路線として構想されたことに加え、市街線は東京砲兵工廠や青山練兵場とのアクセスを意識してルートが選定されています。さらに昭和期には沿線に中島飛行機、立川飛行場といった軍事施設が集積していました。これらの施設の一部は民需転換して沿線地域とは異なる内陸部の工業集積として今日に引き継がれているほか、戦後は大学等の教育機関の敷地に引き継がれ、中央線を「上京した学生の住む沿線」としてのイメージに作り変えて行きました。—「あとがき」

●好評既刊 永江雅和著『小田急沿線の近現代史』本体1,800円 ISBN978-4-905388-83-8 C0021

●好評既刊 永江雅和著『京王沿線の近現代史』本体1,800円 ISBN978-4-908823-15-2 C0021

クロスカルチャー出版 〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町2-7-6 電話 03-5577-6707 ファクス 03-5577-6708

【注文短冊】書店印		発行: クロスカルチャー出版 TEL: 03-5577-6707 FAX: 03-5577-6708	
ご担当者様( )		<b>中央沿線の近現代史</b>	
		■定価: 本体2000円+税 ISBN978-4-908823-73-2 C0021	
冊			